

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 理事会

日 時：19年6月23日（土）7：00～8：00

場 所：ホテルメトロポリタン仙台 21階「ラ・ボーン」

出席者：市村（理事長），飯野（ホームページ担当），伊藤，大迫，小河原（会計担当），川城（顧問），小林（第2回会長），工藤（編集担当），黒野，阪上，佐々木（幹事），佐野（保険担当），泰地（庶務），田中（監事），内藤，早川（監事），福永，深美（幹事），細井，守本（幹事），矢野（50音順，敬称略）

1. 市村恵一理事長ご挨拶

本大会の開催について，関係協力を得た各人に謝意が述べられた。

2. 第2回学術講演会開催について

小林俊光第2回会長より表記開催についての感謝が述べられた。

3. 平成18年度事業報告（庶務担当：泰地理事）

* 理事のうち出席14名，委任状4名で理事会が有効であることが説明された。

1) 第1回小児耳鼻咽喉科学会総会が，平成18年6月30・7月1日奈良県新公会堂にて，奈良医大耳鼻咽喉科・細井裕司会長のもとで開催された。

2) 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成20年6月21日，22日に鹿児島大学耳鼻咽喉科・黒野祐一会長のもとに開催することが決定された。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第27巻2号・3号および第28巻1号を刊行した。

4) 第1回日本小児耳鼻咽喉科理事会，評議員会をそれぞれ平成18年6月30日に開催した。

5) 日本小児耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席した。

6) 小児耳鼻咽喉科取り扱い範囲と到達目標設定のためのワーキンググループを設立し，小児耳鼻咽喉科の担当領域（試案）を日本小児耳鼻咽喉科学会誌第28巻1号に掲載した。

7) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。

8) 会員の現況は，平成19年5月31日現在名誉会員2名，正会員691名（うち18年度入会者71名）団体会員11名，購読会員2名，寄贈会員6名 合計712名である。

以上の議事が承認された。

4. 平成18年度決算報告（会計担当：小河原理事，監査：田中監事）

平成18年度の決算と資産状況が報告された。田中監事・早川監事より平成19年6月13日に会計監査が適正に行われたと報告され承認された。
以上の議事について承認された。

5. 平成19年度事業計画（案）（庶務担当：泰地理事）

- 1) 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会が本日、平成19年6月23・24日の2日間、『仙台市医師会館・仙台市急患センター』において小林俊光会長のもとに開催する。
 - 2) 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成20年6月21日・22日に鹿児島大学耳鼻咽喉科・黒野祐一会長のもとに開催に向けて準備する。
 - 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第28巻2号・3号、および第29巻1号を刊行する。
 - 4) 理事会および評議員会を平成19年6月23日に開催する。
 - 5) 役員選挙のために定款、定款施行細則の変更を行う。平成20年度の役員選挙のために選挙管理委員会を置く。
 - 6) 日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席する。
 - 7) 小児耳鼻咽喉科取り扱い範囲と到達目標設定のためのワーキンググループで小児耳鼻咽喉科の到達目標について検討する。
 - 8) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。
 - 9) ホームページの維持と内容の充実をはかる。
- 以上の議事が承認された。

6. 平成19年度予算案（会計担当：小河原理事）

小河原担当理事より平成19年度予算案について報告があり承認された。

7. 各種委員会報告

1) 学会誌編集報告（編集担当：工藤理事）

昨年から1年間に3回の会誌発行となったことが説明された。講演やシンポジウムを行っていただいた方から、原著も順調に集まっていると報告された。また、科学技術振興会から雑誌の電子化について照会がありアンケートに回答したことと、小児急性中耳炎診療ガイドラインの別冊を作成したため配布可能であり、値段も比較的安価であるので是非活用していただきたいとの要望があった。

2) ホームページ委員会報告（ホームページ委員会委員長：飯野理事）

現在のホームページは学会の概要が多く、日本小児耳鼻咽喉科学会がめざすもの、また特徴などを強調すべきではないか、との意見があり、『日本小児耳鼻咽喉科学会とは？』というページを作成することとした。

小児科医師における学会の知名度が低いことがあり、小児科関連学会とのリンクを密にし、小児科医師のホームページ委員会への参加を検討することとした。

現在のホームページの更新は年に2～3回のため、市村理事長の挨拶を随時掲載するなど頻回に更新してゆくこととした。しかしそのためには予算の増額が必要である。前回の委員会で提案のあった、全国の小児病院とのリンクは本年度中に実行することとした。

耳鼻咽喉科各学会とのリンクを密にすることを検討することとした。

3) 用語委員会報告（用語委員会委員長：細井理事）

英語表示と日本語表示の取捨選択の妥当性、誤字と訂正、追加項目について検討中である。今後、理事長とも最終検討のうえ日本耳鼻咽喉科学会へ提出予定であることが報告された。

8. 保険委員会報告（保健医療委員会：佐野理事）

厚生労働省より新規医療機器の要望を求められたが、本学会からは要望なしとした。日本耳鼻咽喉科学会保険委員会への情報提供として、当学会の保険担当委員である佐野光仁（大阪府立母子保健総合医療センター）、守本倫子（国立成育医療センター）、阪本浩一（兵庫県立こども病院）の3名の名簿提出をした。

医療技術評価希望として、ASSR、および喉頭気管分離術の2点を提出したことが報告された。

9. 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会について（市村理事長）

第4回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会会長選出について、藤田保健衛生大学耳鼻咽喉科・内藤健晴教授が推薦され承認された。内藤健晴教授より挨拶があり、今後の協力がもとめられた。

市村理事長より、これまで耳鼻咽喉科からの会長がつづいているため、小児科医師にも積極的に参加していただき、小児科からも会長が選出されてゆくようにしたいとの希望がのべられた。

10. 新理事・評議員の推薦について（市村理事長）

1) 理事の候補者：

川崎一輝（国立成育医療センター呼吸器科）

氷見徹夫（札幌医科大学耳鼻咽喉科）

（敬称略）

以上の2名が推薦され了承された。

2) 評議員候補者：

安岡義人（群馬大学耳鼻咽喉科）

益田 慎（県立広島病院小児感覚器科）

中井麻佐子（滋賀県立小児医療センター耳鼻咽喉科）

仲野敦子（千葉県こども病院耳鼻咽喉科）

由良いづみ（徳島大学耳鼻咽喉科）

笹村佳美（自治医科大学耳鼻咽喉科）

年度幹事として福岩達哉（鹿児島大学）

（敬称略）

以上の7名が推薦され了承された。

11. 役員選挙について

研究会から学会になったことにより、今後役員選挙が必要であることが理事長より提起された。これにともない、次回改選時より理事は評議員会において選出されることになった。

選挙管理規定について、小児科の枠を設定しておくかどうかで議論があった。理事の任期は3年とする。推薦枠を設けて理事長の裁量で小児科医が理事に入るように検討する。各科の参加をうながす、定員、定年をどうするかなど、細則について今後さらに検討がすすめられることとなった。

12. 第3回総会・学術講演会 黒野祐一

会長ご挨拶（黒野祐一：鹿児島大学教授）

2008年6月21日・22日、鹿児島県の城山観光ホテルにて開催予定である。会期の直前に国際小児耳鼻咽喉科学会があるが、是非参加していただきたいと述べられた。プログラムの詳細は現在未定であるが、特別講演として「ドクターコトー」のモデルでもある、瀬戸上先生に『離島医療について』講演いただく予定であることが紹介された。

13. その他（市村理事長）

2008年ヨーロッパ小児耳鼻学会（ブダペスト）の会長より、日本から座長・講演の推薦依頼があり、理事数名が推薦されたことが報告された。

理事長：市村恵一

庶務担当：泰地秀信

文責：守本倫子

佐々木祐佳子

幹事：深美 悟， 矢野寿一

第2回日本小児耳鼻咽喉科学会議事録 評議員会

日 時：平成19年6月23日（土）8：20～8：50

場 所：仙台市医師会館，5階研修室1・2

出席者：市村（理事長），飯野（ホームページ担当），石川，伊藤，大迫，小河原（会計担当），川城（顧問），工藤（編集担当），黒野，小林（第2回会長），阪上，佐々木（幹事），佐藤，佐野（保険担当），鈴木（賢），鈴木（正），泰地（庶務），田中（監事），戸川，友田，内藤，春名，早川（監事），福岩，福永，深美（幹事），細井，宮崎，守本（幹事），矢野（50音順，敬称略）

1. 市村理事長挨拶（市村理事長）

今回の第2回学会開催にあたっての挨拶と，小林会長以下各位に対して謝意がのべられた。また，学会になり2回目の学術講演会を迎え，今後の発展への期待が述べられた。

2. 第2回総会・学術講演会開催について（第2回総会・学術講演会会長：小林俊光理事）
小林会長より表記開催についての協力に対して感謝が述べられた。

3. 平成18年度事業報告（庶務担当：泰地理事）

*議事に入るにあたって，評議員71名中，出席20名以上，委任状40名で，評議員会が成立していることがのべられた。

1) 第1回日本小児耳鼻咽喉科学術講演会

第1回日本小児耳鼻咽喉科学会学術講演会が，平成18年6月30・7月1日，奈良県新公会堂にて，奈良医大・細井裕司会長のもとに開催された。

2) 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成20年6月21・22日に鹿児島大学耳鼻咽喉科・黒野祐一会長のもとに開催することが決定した。

3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌，第27巻2号・3号，第28巻1号が刊行された。

4) 日本小児耳鼻咽喉科学会理事会および評議員会を平成18年6月30日に開催した。

5) 日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席した。

6) 小児耳鼻咽喉科取り扱い範囲と到達目標設定のためのワーキンググループを設立し，小児耳鼻咽喉科の担当領域（試案）を日本小児耳鼻咽喉科学会誌第28巻1号に掲載した。

- 7) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力した。
 - 8) 平成19年5月31日現在名誉会員2名，正会員691名（うち18年度入会者71名），団体会員11名，購読会員2名，寄贈会員6名，合計712名である。
- 以上の議事が承認された。

4. 平成18年度決算報告（会計担当：小河原理事，監査：早川監事）

平成18年度の収支決算の内容が報告され，承認された。早川監事より田中監事と共に，平成19年6月13日に監査を行い，適正であったことが報告された。

5. 平成19年度事業計画（庶務担当：泰地理事）

- 1) 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成19年6月23・24日の2日間，仙台市医師会館・仙台市急患センターにおいて小林俊光会長のもとに開催する。
 - 2) 第3回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会を平成20年6月21・22日に鹿児島大学耳鼻咽喉科・黒野祐一会長のもとに開催に向け，準備する。
 - 3) 日本小児耳鼻咽喉科学会誌第28巻2号，3号，および第29巻1号を刊行する。
 - 4) 理事会および評議員会を平成19年6月23日に開催する。
 - 5) 役員選挙のために定款，定款施行細則を変更する。平成20年度の役員選挙のために選挙管理委員会を置く。
 - 6) 日本耳鼻咽喉科学会主催の関連する学会懇談会に出席する。
 - 7) 小児耳鼻咽喉科取り扱い範囲と到達目標設定のためのワーキンググループで小児耳鼻咽喉科の到達目標について検討する。
 - 8) 小児急性中耳炎診療ガイドラインの改訂版作成作業に協力する。
 - 9) ホームページの維持・充実をはかる。
- 以上の事業計画が承認された。

6. 平成19年度予算案

平成19年度予算案について小河原会計担当理事より報告があり，承認された。

7. 学会誌編集報告（編集担当：工藤理事）

日本小児耳鼻咽喉科学会誌が3月に第28巻1号，6月に2号（総会号）が発行された。学会になってからは年3回の発行として12月，4月，6月の発行であったが間隔が短いため，6月，11月，3月の，年3回発行としたい。28巻の3号は11月に刊行予定である。科学技術振興会から雑誌の電子化について照会があり，アンケートに回答したところである。小児急性中耳炎診療ガイドラインの別冊を昨年9月に作成したため配布可能であることが報告され，是非活用していただきたいと要請があった。

8. ホームページ委員会報告（ホームページ担当：飯野理事）

現在のホームページは学会開催の内様が主であり、日本小児耳鼻咽喉科学会の目指すもの、特徴などを強調した方がよいのではないかという意見があった。そこで、「日本小児耳鼻咽喉科とは」というページを設定することとした。

小児科における学会の知名度が低いため、小児科関係と学会とのリンクを密にする、また、小児科医師にホームページ委員会に参加していただきたいということなどを検討している旨が報告された。

現在はホームページの更新が年に2回と小修正で、年3回程度の更新であったが、もっと頻回に更新を行い、特に市村理事長の挨拶を随時掲載するなどの計画が述べられた。そのためには予算の増額が必要であることが示された。

また、前回の委員会で提案のあった、全国の小児病院のサイトへのリンクは今年度中に行われる予定である。他の学会とのリンクとも検討中である。

9. 用語委員会報告（用語委員会担当：細井理事）

約1年をかけて、英語表示と日本語表示の取捨選択の妥当性、誤字と訂正、追加項目について検討した上でこの8月中に日本耳鼻咽喉科学会へ提出予定であることが報告された。

10. 保険委員会報告（保険委員会担当：佐野理事）

厚労省への新規医療機器の要望を求められたが、本学会からは要望なしとした。

日本耳鼻咽喉科学会保険委員会へ、情報提供を行った。本学会の保険担当委員の名簿提出をおこなった。医療技術評価希望としてASSR、および喉頭気管分離術の2点を提出したことが報告された。

11. 第4回日本小児耳鼻咽喉科学会会長選出について（市村理事長）

第4回総会、学術講演会は藤田保健衛生大学耳鼻咽喉科・内藤健晴教授が会長となり準備していくことが承認された。

12. 理事、評議員の改選について（市村理事長）

理事の候補者として川崎一輝（国立成育医療センター呼吸器科）、氷見徹夫（札幌医科大学耳鼻咽喉科）、評議員候補者として安岡義人（群馬大学）、井口郁雄（広島市立病院）、熊本真優子（福岡市立こども病院）、坂田英明（埼玉小児医療センター）、松谷幸子（仙台赤十字病院）、望月高行（大和徳州会病院）、益田慎（県立広島病院小児感覚器科）、中井麻佐子（滋賀県立小児医療センター）、仲野敦子（千葉県こども病院）、由良いづみ（徳島大学）、笹村佳美（自治医科大学）、年度幹事として福岩達哉（鹿児島大学）（敬称略）が提案され、了承された。

役員選挙について

次回改選時より理事は評議員会において選出されることが承認された。

選挙管理規定について

小児科の枠を設定しておくかどうかで議論があった。推薦枠を設けて理事長の裁量で小児科医が理事に入るように検討されることになり、選挙管理規定は修正の上、後日に再度承認を求めることになった。

13. 第3回総会について（黒野祐一・鹿児島大学教授）

2008年6月21～22日 城山観光ホテルにて予定。

プログラムについては未定であるが、特別講演として「ドクターコトー」のモデルである瀬戸内先生に、離島医療について話していただくことにしていると報告があった。

14. 国際会議について（市村理事長）

国際小児耳鼻咽喉科学会より日本人で座長、口演の推薦依頼があり、数名推薦したことが報告された。

理事長：市村恵一

庶務担当：泰地秀信

文責：深美 悟

佐々木祐佳子

幹事：守本倫子，矢野寿一